

芸術科 H22 (音楽) シラバス		2単位	普通科 第1学年 1~4組
年間の到達目標		歌を楽しむ心を育てる。 合奏を通し、グループで協力して行うアンサンブルの楽しさを知る。 音楽映画を鑑賞することにより、音楽的表現の面白さを知る。	
教科書・副教材等		音友 改訂新版 高校生の音楽1	
月	学習内容	学習のねらい	
4	歌唱 音楽史オリエンテーション トーンチャイムの基礎合奏	2つの野薔薇をドイツ語で歌い、作曲者の表現の違いを味わう。 音楽史を勉強する意図を理解する。 トーンチャイムを使用し読譜力を養う。	
5	歌唱 音楽映画鑑賞 トーンチャイムの基礎	リートの楽しさを味わう。 音楽映画の楽しさを知る。 トーンチャイムのグループ合奏を体験する。	
中間考査範囲		中間テストは実施しない	
6	校歌などの歌唱 音楽映画鑑賞 トーンチャイムの応用合奏	校歌を含め今学期の復習をし、実技テストに備える。 音楽映画を通しての音楽の楽しさを知る。 トーンチャイムを利用し、多声部による合奏を楽しむ。	
7	歌唱テスト 合奏グループテスト	実技試験を通し自己を磨き、 今後のさらなる発展のための足がかりをつくる。	
期末考査範囲		1学期に歌った歌曲及び、合奏曲より一曲選択する。なお、歌唱はソロ、合奏はグループによる。	
〔備考〕今後3年間の音楽を楽しく学習できるように高校音楽の基礎を身につける。			
9	歌唱 音楽映画の鑑賞 アルトリコーダーの基礎合奏	日本歌曲の情緒を味わう。 音楽映画鑑賞により世俗で親しまれる音楽に触れる。 リコーダーの基礎を学び合奏に備える。	
10	歌唱 西欧音楽映画鑑賞 アルトリコーダーの基礎合奏	ミュージカルの代表的な歌を歌いミュージカルの楽しさを味わう。 ヨーロッパの音楽映画に触れる。 アルトリコーダーの簡単なアンサンブルを体験する。	
中間考査範囲		中間テストは実施しない	
11	歌唱 西欧音楽映画鑑賞 アルトリコーダーのグループ合奏	フォスターの歌などを歌い、アメリカ歌曲のルーツを探る。 ミュージカルなどの素晴らしさに触れる。 アルトリコーダーを用いグループ合奏を楽しむ。	
12	歌唱テスト アルトリコーダー合奏グループテスト	実技試験を通し自己の力を磨き、 今後のさらなる発展のための足がかりをつくる。	
期末考査範囲		2学期に歌った歌曲及び合奏曲より、それぞれ一曲を選択し演奏する。	
〔備考〕よい雰囲気の中で、かつ、努力をおこたらぬよう基礎力を身につける。			
1	式歌の歌唱 音楽映画鑑賞 アルトリコーダーの3重奏「歓喜の歌」	卒業式のための歌 ピアノをフィーチャーした映画に触れる。 アルトリコーダーで重奏を学ぶ。	
2	式歌の歌唱音楽 映画鑑賞 アルトリコーダーの3重奏「歓喜の歌」	卒業式歌を、心を込めて歌う。 音楽映画の楽しさを味わう。 アルトリコーダー重奏を楽しむ。	
3	歌唱テスト 合奏グループテスト	実技試験を通し自己の力を磨き、 今後のさらなる発展のための足がかりをつくる。	
学年末考査範囲		3学期に歌った歌曲及び、合奏曲より一曲選択し演奏する。なお、歌唱はソロ、合奏はグループによる。	
〔備考〕歌う、聴く、演奏するという3つの実践を通し、音楽の楽しさをより身近なものとして感じ取れるようになったか振り返ってみる。			
評価の観点	内容	評価方法	
関心 意欲 態度 (10)%	表現の授業に関心を持ち積極的に参加すること。 音楽史などの理解に意欲を示すこと。 教科書、配布物、筆記用具を用意し、物事に前向きに取り組む態度を示すこと。	出欠の状況 授業に臨む平素の態度	
芸術的な感 受や表現の 工夫 (10)%	合奏時協力し合い練習を進めること。 合唱時、他生徒の協調性があること。 鑑賞時集中して音楽を聴き、理解しようと努力すること。	質疑応答 協力性、協調性 授業内容への関心度	
創造的な表 現の工夫 (40)%	楽器の演奏技術を向上させること。 歌唱表現を積極的に試みていること。 歌詞を暗譜すること。 音楽を自分のものとして表現しようとする事。	楽器の演奏技術習得度 歌唱技術習得度 演奏の芸術性	
鑑賞の能力 (40)%	器楽の楽譜を正確に理解すること。 音楽史の内容を把握すること。	読譜力 音楽史理解力 芸術的文章の表現力	
( )%			
〔担当者からのメッセージ〕 音楽の表現、鑑賞、知識の総合的な力がバランスよく身につくことこそ、音楽を幅広く楽しむことができる。豊かな感性を育てるために、いろいろな側面から音楽にアプローチしてもらいたい。			